

製品安全データシート

整理番号 : jcam-5072
改定日 : 2021 年 3 月 16 日

1 製品及び会社情報

製品名 ; くみあいほう素入りグッド I B ・スーパー I B 複合 S 8 8 0
別名 ; グッド I B、スーパー I B 入り 8 8 0
会社名 ; 全国農業協同組合連合会
担当部署 ; 耕種資材部
住所 ; 〒100-6832 東京都千代田区大手町 1-3-1 JA ビル 33F
電話番号 ; 03-6271-8285
FAX 番号 ; 03-5218-2536
e-mail ; zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp
緊急連絡先 ; 03-6271-8285

推奨用途及び使用上の制限 ; 肥料用及び肥料原料用。肥料用途以外には使用しないでください。

2 危険有害性の要約

製品の GHS 分類

物理化学的危険性	可燃性固体	区分に該当しない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	酸化性固体	区分に該当しない
	金属腐食性物質	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分に該当しない
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入）	分類できない
	皮膚腐食性/刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷 /眼刺激性	分類できない
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器毒性 （単回ばく露）	区分に該当しない
	特定標的臓器毒性 （反復ばく露）	区分に該当しない

製品安全データシート

整理番号 : jcam-5072
改定日 : 2021 年 3 月 16 日

	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	区分に該当しない
	水生環境有害性 長期（慢性）	分類できない

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	
【安全対策】	粉じんを吸入しないこと。 換気の良い場所で使用すること。
【応急措置】	気分が悪い時は、医師に連絡すること。
【保管】	容器を密閉して保管すること。 可燃物から離して保管すること。
【廃棄】	内容物・容器を国及び地方自治体の規則に従って廃棄すること。

3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	指定配合肥料

主成分	含有量 (%)	化学式	官庁公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
イソブチリデンジウレア (IBDU)	40-50	下記に記載*	2-(11)-21	6104-30-9
リン酸カルシウム	10 以下	$\text{Ca}(\text{H}_2\text{PO}_4)_2$	1-183	7758-23-8
リン酸マグネシウム	1 以下	$\text{Mg}_3(\text{PO}_4)_2 \cdot 8\text{H}_2\text{O}$	1-387	13446-23-6
硫酸カリウム	20-30	K_2SO_4	1-454	7778-80-5
リン酸二アンモニウム	10-20	$(\text{NH}_4)_2\text{HPO}_4$	1-379	7783-28-0
硫酸アンモニウム	10 以下	$(\text{NH}_4)_2\text{SO}_4$	1-400	7783-20-2
ミネラス	10 以下	MnO 、 B_2O_3	—	—
シリカヒューム	1 以下	SiO_2	—	69012-64-2

*イソブチリデンジウレア (IBDU) の化学式 : $(\text{CH}_3)_2\text{CHCH}(\text{NHCONH}_2)_2$

労働安全衛生法に基づく、名称等を表示し、又は通知すべき無機危険物及び有害物
無機マンガン化合物 約 0.2%（ミネラス：酸化マンガン）

4 応急措置

- | | |
|-----------|---|
| 吸入した場合 | 分解ガスや粉塵の場合は、新鮮な空気のある場所に移し安静にさせ、必要に応じて医師の診断を受ける。 |
| 皮膚に付着した場合 | 水で洗い流す。 |
| 眼に入った場合 | 1. 直ちに多量の清水で洗眼する。
2. 必要に応じて医師の診断を受ける。 |
| 飲み込んだ場合 | 意識があるときには、飲んだものを吐き出させ、必要に応じて医師の診断を受ける。 |

5 火災時の措置

- | | |
|-----------------------|---|
| 適切な消火剤 | 多量の水 |
| 使ってはならない消火剤 | 情報なし |
| 火災時の特有の危険有害性 | 加熱されると有害ガス（アンモニアガス等）を発生する。 |
| 特有の消火方法 | 本製品は不燃性であるが、加熱されると有害ガスを発生するので、保管場所を移動する。
移動が困難な時は、多量の水を注水する。 |
| 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置 | 消火活動は風上から行い、有害なガスの吸入を避ける。
状況に応じて呼吸保護具を着用する。 |

6 漏出時の措置

- | | |
|-----------------------|---|
| 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 | 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。作業の際には適切な保護マスク等を着用し、粉塵を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。可燃性物質に着火した場合に備えて、消火機材を準備する。 |
| 環境に対する注意事項 | 排水溝へ流さない。 |
| 封じ込め及び浄化方法及び機材 | 掃き集めて回収する。 |

7 取扱い及び保管上の注意

- | | |
|----------|--|
| 取扱い | |
| 技術的対策 | 発散した粉じんを吸いこまないように、必要に応じて適切な保護具を着用し、取扱い後は顔、手、口等を水洗いする。 |
| 接触回避 | 強アルカリ性資材、燃料その他の可燃性物質との直接混合は避ける。 |
| 安全取扱注意事項 | 1. 床にこぼれた粒で足元が滑り、転倒する事があるので、掃除する。
2. 容器は破損につながらないよう丁寧に取り扱う。 |
| 保管 | |

製品安全データシート

整理番号: jcam-5072
改定日: 2021 年 3 月 16 日

安全な保管条件

- 1.開封のまま長期間放置すると、吸湿して固結の原因となるので、開封後は密封して保管する。
- 2.直射日光を避け、高温・多湿下での保管は避ける。
- 3.可燃性物質との近接は避ける。

安全な容器包装材料

ポリエチレン、ポリプロピレン

8 暴露防止及び保護措置

設備対策
管理濃度
許容濃度

発塵を起こさぬ装置機械を使うか、局所排気装置を使用する。
設定なし。
日本産業衛生学会、ACGIH 共に、本品の設定はないが、粉塵対応として、下記の値を推奨する。
日本産業衛生学会勧告値（2020 年）第 3 種粉塵
吸入性粉塵 2 mg/m³
総粉塵 8 mg/m³

保護具

呼吸器の保護具
手の保護具
目の保護具
皮膚・身体の保護具

防塵マスク
ゴム手袋
ゴーグル型眼鏡
長袖作業衣

9 物理的及び化学的性質

物理的状態
色
臭い
沸点又は初留点及び
沸騰範囲
可燃性
pH
溶解度
溶解性（水）
蒸気圧
密度
粒子特性
その他のデータ
かさ比重
分解温度

固体
灰白色
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
易溶
データなし
データなし
粒径範囲 1~4mm
約 1.0
データなし

10 安定性及び反応性

反応性
化学的安定性
危険有害反応可能性
避けるべき条件
混触危険物質
危険有害な分解生成物

特になし。
加熱するとアンモニアガス等の有害ガスを発生する。
データなし。
高温、多湿
可燃性物質
アンモニアガス、窒素酸化物等

1 1 有害性情報

急性毒性（経口）

区分に該当しない

構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。

<リン酸二アンモニウム>

ラット LD50 値 : 6,500g/kg

<硫酸カリウム>

ラット LD50 値 : 6,600mg/kg (GISAAA 1985)

<硫酸アンモニウム>

ラット LD50 値 : 4,250g/kg (SIDS 2004)

<アセトアルデヒド縮合尿素>

ラット LD50 値 : 150,000mg/kg

以上のデータに基づき区分に該当しないとした。

急性毒性（経皮）

分類できない データなし

急性毒性（吸入）

分類できない データなし

皮膚腐食性/刺激性

分類できない

構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。

<尿素>

ヒトの試験では 7.5% で Slight irritation、30% で moderate との報告がある (48 時間)。

ICSC では皮膚に対し発赤と記載されている。

ウサギの試験では刺激性は認められていない。

上記の有害性情報があるが、JISZ7252:2019 の表 B.4 の判定基準（皮膚刺激性の区分）を満たす証拠がなかったため、分類できないとした。

眼に対する重篤な損傷/
眼刺激性

分類できない

構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。

<尿素>

ICSC では眼に対し発赤と記載されている。

ウサギの試験では刺激性は認められていない。

上記の有害性情報があるが、JISZ7252:2019 の表 B.8 の判定基準（可逆的な眼への影響に関する区分）を満たす証拠がなかったため、分類できないとした。

呼吸器感作性

分類できない データなし

皮膚感作性

分類できない データなし

生殖細胞変異原性

分類できない データなし

製品安全データシート

整理番号: jcam-5072
改定日: 2021 年 3 月 16 日

発がん性	分類できない データなし
生殖毒性	分類できない データなし
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分に該当しない 構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。 <酸化マンガン> 本物質の単回ばく露による情報は少ない。ヒトにおいては、二酸化マンガン粉じんの単回吸入ばく露は、肺の炎症反応をもたらす。その症状は、咳、気管支炎、肺炎、肺機能の低下である。また、マンガンのヒューム吸入ばく露でヒューム熱の発症が認められている(CICAD 63 (2004)、NITE 有害評価書 (2008))。 実験動物では、げっ歯類 (動物種不明) の 2.8-43 mg/m³ (0.0028-0.043 mg/L) の吸入ばく露で肺の炎症、ラットの吸入ばく露(気管内注入、用量不明)で肺の組織学的変化が認められている (CICAD 63 (2004)、ACGIH (7th, 2001)、EHC 17 (1981)) が、これらの実験動物のデータは分類に用いなかった。 以上より、本物質は呼吸器に影響を与えられ、区分 1 (呼吸器) とした。但し、本製品は混合物で、当該物質の含有量は 1%未満のため区分に該当しないとした。
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分に該当しない 構成成分である下記物質については、次のような有害性情報がある。 <酸化マンガン> ヒトでは本物質粒子への慢性吸入ばく露により、呼吸器障害 (咳、気管支炎、肺炎)、マンガン粒子を貪食したマクロファージを特徴とする肺炎の発生率の増加がみられ、一部の例には肺水腫も併発していた (SIDS (2012)、NITE 初期リスク評価書 (2008)、ATSDR (2012)) との記述、並びにアルカリ乾電池工場での本物質への職業ばく露 (吸入性粉じん濃度: 0.021-1.32 mg Mn/m³;ばく露期間: 0.2-17.7 年間) により、視覚の単純反応時間及び眼と手の協調運動の低下に加え、手の硬直がみられた (SIDS (2012)、NITE 初期リスク評価書 (2008)、ATSDR (2012)) との記述がある。ATSDR (2012) は疫学研究報告を詳細に調査し、前述のアルカリ乾電池工場での職業ばく露報告のように、低濃度のマンガン化合物の長期ばく露による神経学的な影響は神経運動能検査、認知機能検査における機能低下や、気分の変化など微妙な変化であるが、本物質を主体としたマンガン化合物への高濃度の反復吸入ばく露により、初期には軽度であるが、次第に感情鈍磨、歩行障害、微細な振るえ、精神障害など明確な神経系障害へと進展していくことは確かであると結論している (ATSDR (2012))。 実験動物ではアカゲザルに本物質粉じんを 10 ヶ月間吸入ばく露 (22 時間/日) した試験で、区分 1 の濃度範囲 (0.7 mg Mn/m³ (1.108 mg MnO₂/m³): ガイダンス値換算値 (0.0041 mg/L/6 時間)) で、カタル性肺炎、肺間質組織の増生がみられ (SIDS (2012)、NITE 初期リスク評価書 (2008)、ATSDR (2012))、ラ

ットでも 10 日間の吸入ばく露により間質性肺炎を生じた (NITE 初期リスク評価書 (2008)) との記述がある。

以上より、分類は区分 1 (神経系、呼吸器) とした。但し、本製品は混合物で、当該物質の含有量は 1%未満のため区分に該当しないとした。

＜シリカヒューム＞

ヒトにおいて、慢性あるいは反復の吸入ばく露により珪肺症と同様なレントゲン所見を伴った金属ヒューム熱のような回帰性熱を起こす。しかし、肺の変化は自然に回復することが報告されている (ACGIH (7th, 2001))。

実験動物において、ラット、モルモット、サルに 15 mg/m³ (0.015 mg/L) を 12～18 ヶ月間吸入ばく露した試験で、いずれの動物種においても肺の単核細胞の集合体の増加、細網線

維がみられ、さらにサルでは膠原線維がみられている (DFGOT vol. 2 (1991))。以上のようにヒトにおいて呼吸器への影響がみられ、また、実験動物、特にサルにおいて区分 1 の範囲で肺に膠原線維がみられている。したがって、区分 1 (呼吸器) とした。

構成成分が区分 1 であり、成分濃度が 1%未満であることから区分に該当しないとした。

誤えん有害性

分類できない データなし

1 2 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性

短期 (急性)

区分に該当しない

構成物質である下記物質については、次のような有害性の報告がある。

＜アセトアルデヒド縮合尿素＞

魚 (ヒメダカ) の 96 時間 LC50>1000mg/l (化学物質評価研究機構 2006)

以上より区分に該当しないとした。

水生環境有害性

長期 (慢性)

残留性・分解性

生体蓄積性

土壌中の移動性

分類できない データなし

データなし

データなし

施肥にあたっては、包材裏面の「施肥量」を参照し、詳しくは最寄りの JA にお問い合わせ下さい。

オゾン層への有害性

データなし

閉鎖性水域では水質の富栄養化をもたらすので、排水については「水質汚濁防止法」の排水基準を守ること。

1.3 廃棄上の注意

1. 下水、河川等に直接流さない。
2. 「廃掃法」にしたがって処理する。
3. 燃やさない（不燃物であるが加熱すると有害ガスを発生する）。

1.4 輸送上の注意

国際規制 該当しない

国内規制 下記の法令に基づく規定の積載方法、容器等によって輸送する。
船舶安全法、航空法、港則法

輸送の特定の安全
対策及び条件 1. 雨水等による水濡れ防止を行う。
2. 破袋、荷崩れ等を起こさぬよう適切な対策をとる。

1.5 適用法令

肥料の品質の確保 指定配合肥料

等に関する法律

消防法 該当しない

労働安全衛生法

第 57 条の 2

粉じん則

通知対象物質（無機マンガ化合物：酸化マンガ）
粉じんが発生する屋内作業場は粉じん則が適用される。
粉じんを多量に吸入した場合、肺障害等の健康障害のおそれがあるため、作業環境測定を行うとともに、その結果に基づいたリスクアセスメントを行うこと。

1.6 その他の情報

- 1) 本安全データシート（SDS）は、現時点で入手できる最新の資料、データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。
- 2) 本文中の注意事項は通常の取扱いを想定しておりますので、製品使用者が特殊な取扱いをされる場合は用途、使用法に適した安全対策を実施の上、製品を使用して下さい。
- 3) 当社は SDS 記載内容について十分注意を払っていますが、その内容を保証するものではありません。
- 4) 本 SDS の危険有害性は、以下の情報・基準を元に作成いたしました。
 - ・ 厚生労働省「職場のあんぜんサイト」の GHS 対応モデル SDS
 - ・ 当社原料メーカーから入手した原料 SDS
 - ・ J I S Z 7 2 5 2 : 2 0 1 9 「GHS に基づく化学品の分類方法」
 - ・ 「危険物船舶運送及び貯蔵規則」

製品安全データシート

整理番号：jcam-5072
改定日：2021 年 3 月 16 日

本 S D S は、下記の情報を元に作成しました。
本製品については、下記にお問い合わせください。

会社名 ；ジェイカムアグリ株式会社
連絡先 ；生産管理本部
住所 ；東京都千代田区神田須田町 2-6-6 ニッセイ 神田須田町ビル
電話番号 ；03-5297-8904
F A X 番号 ；03-5297-8908
緊急連絡先 ；黒崎工場
電話番号 ；093-643-2375